

2019/03/17

「人は良き者」

■正しい土台に建つ

何事においても、土台を間違えてしまったら、正しい結論には至りません。聖書が教える、私たちが生きる上での正しい土台は神です。あなたはその土台に合った生き方をしているでしょうか。

「神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」（創世記 1:27）

聖書は、神が人を造ったと教えています。「ご自身のかたちに創造された」と訳されている箇所は、新改訳聖書の初版では「私たちは神に似せて造られた」となっています。神に似せて造られたということは、「人は大変良いものである」ということです。

「そのようにして神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ。それは非常によかったです。こうして夕があり、朝があった。第六日。」（創世記 1:31）

「私たちは非常に良い者である。」これが、すべての基本です。神は、この前提に則って私たちに対応なさいますから、このことを理解していないと神の本心がわからず、誤った人生を組み立ててしまいます。

「その後、神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きものとなった。」（創世記 2:7）

「いのちの息」の「いのち」という言葉は複数形で、三位一体の神のいのちを表しています。そして「息」は、「靈・魂」とも訳せる言葉です。つまり神は、ご自身のいのちを私たちの中に吹き込んで、私たちの魂にしたのです。これが、人は良き者であるということの根拠です。人の本質は神のいのちなのです。

このことは、人間の価値はうわべにはないとの根拠でもあります。人の価値は、あくまでもその本質である神のいのちです。体はいのちを生かすための器であり本質ではありません。

しかし、この世は、高い能力を持った人を天才だ、偉人だともてはやし、「あいつはすごい」「あいつはダメだ」と能力や容貌などのうわべで人の価値を判断しています。うわべが自分の価値だと思いこみ、人と比べ、「今はダメだが、こうしたら良くなる」と、ダメな者であることが前提になっています。そのため、私たちが人を見る前提是、「人間はダメな者」という前

提です。

しかし、神の考え方には違います。人は皆神のいのちを持っているから、すべての人が素晴らしいのです。すべての人が神のいのちを持っているということは、すべての人が救われる機会を平等に持っているということです。重度の障害者であっても、子どもであっても、すべての人が完全な魂を持っているので、潜在意識の中で神の呼びかけを聞き、等しく神に応答することができるのです。

■良き者とはどういうものか

1. 人は良き者ゆえに無条件で愛される

私たちは、愛されるにはうわべの価値が必要だと思い込んでいます。しかし、すべての人は良き者なので、無条件で神に愛されています。アダムとエバが、裸でも恥ずかしいと思ったことがなかったのは、神に無条件で愛されていることを知っていたからです。

「そのとき、人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。」

(創世記 2:25)

しかし、アダムとエバが神に逆らう蛇の言葉を信じたことによって神との関係が壊れ、この世界に死が入り込みました。死とは、神との結びつきを失うことです。こうして、神に愛されていることが認識できなくなった二人は、自分のうわべを見て恥ずかしいと思い、恐れが生じました。

「このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」

(創世記 3:7)

「彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」」 (創世記 3:10)

私たちの魂は造り主なる神を知っています。しかし、知識や五感で神を知ることはできません。そこで、魂は神の本質である永遠を求め、自由を求めるようになりました。音楽、芸術、政治、スポーツ……、手段は違っても、人間が皆、自由や可能性を求めて生きるのは、自由の先にある神を求めているからなのです。ただ、人はそのことに気づかず、自分が何を求めて生きているのかわかっていないのです。

2. 人は良き者ゆえに罪に苦しむ

「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをあらかじめ備えてくださったのです。」 (エペソ 2:10)

私たちは良い行いをするために造られた者ですが、同時に、人は皆罪人だと聖書は教えています。これは、人は良き者として造られたため、罪を犯せば苦しむ存在だということです。良心の呵責、それは良き者のしるしなのです。

このことが理解できると、罪を犯す自分や相手を責めたり裁いたりせずに済むようになります。罪を犯すのは本来の姿ではないですから、責めたり裁いたりするのは、愚かなことです。罪は病気であり、癒されることができます。自分の罪に苦しむ人は神に癒していただければ良いし、相手の罪を見つけたら癒されるように願ってあげればよいのです。

病気になって「つらいなあ」と感じるのは、健康を知っているからです。罪を犯して「つらい」と感じるのも同様で、もともと良き者であったために、そうでない状態をつらく感じるのです。ですから、神は罪を病として扱い、この病を癒すためにイエス様が救い主としてこの地上に来られたのです。聖書は繰り返し「裁いてはいけない」と教え、イエス様は「私はあなたがたを癒すために来た」と語っておられます。

私たちが神から預かっている福音は、平和の福音です。「平和の福音」とは、裁かない福音です。人が本来良き者であり、罪は病気だから癒されることができます。その結果、あなたは罪を責めたり裁いたりするつらさから解放されます。

3. 人は良き者だから罪が赦される

「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」（ヨハネ 1:9）

神は何度でも私たちの赦すと言われました。それは私たちが良き者だからです。死によって神の愛が見えなくなり、その不安によって罪を犯すようになったことを、聖書は「死のとげは罪」と語っています。死とは、神との結びつきを失うことです。不安のために犯した罪を神は裁くのではなく、不安を取り除くことによって、本来の良き者に戻させてくださるのです。裁いて罰することでは、罪を取り除くことはできません。人が罪から離れるために必要なことは、本来の姿に戻ることです。

4. 人は良き者ゆえに弁護される

「私の子どもたち。私がこれらのこと書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。」（ヨハネ 2:1）

罪を犯した人間を見返りなく弁護してくれる人がこの世にいるでしょうか。罪を犯した有名人の報道を見ればわかる通り、皆でよってたかって裁くのがこの世のやり方です。しかし、神はご自分が造ったものが良いものであると知っているので、どんな状況であっても、迷わ

ず弁護してくださいます。

あなたは良き者だから、神はあなたを裁かないし、赦すだけでなく、弁護までしてくださいます。何があっても助けると、神はあなたをそこまで愛しておられるのです。

イエス様は、姦淫の現場で捕まるという、どうあがいても言い逃れのできない状況にあった女性を、ただ一人弁護してくださいました。イエス様の「この中で罪を犯したことのない人がいたら、その人から彼女に石を投げなさい」という言葉を聞いて、すべての人が「自分には石を投げる資格はない」と去って行きました。そして、最後にイエス様は彼女に対して、「あなたの罪は赦された。」と宣言なさったのです。

5. 人は良き者ゆえに神としか結びつけない

私たちは神が造った良き者です。良き者は神としか結びつくことができません。この世の楽しみや富や名誉と結びつこうと思っても、結びつけないです。神のいのちで造られ、神が良き者としたものは完璧で、神以外に平安が得られるところがないからです。

「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」（ヨハネ 1:3）

「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。」（ヨハネ 2:15）

人と交わることの最終ゴールは神との交わりです。私たちの魂が求めているのは神ですから、世にあるものを愛しても、自分自身がつらくなるだけです。私たちがこの世に虚しさを覚えるのは、良き者であるがゆえの宿命です。この世で得た満足は一時的で、一時は楽しくてもやがて虚しさに襲われます。本当に満足したらいつまでもそれを持っているはずですが、人は虚しさを繰り返し、それを消そうとして、楽しみを追いかけて生きています。

魂が求めている交わりは神との交わりであり、それ以外のものでは決して満足することができないです。

■間違った行動パターン

私たちは自分が良き者だということを知らないために、「自分はダメな者だ」という行動を取っています。自分の行動パターンに気がついて、正しい認識に立ち返りましょう。

1. 頑張って愛されようとする

人に良く思われるようとして生きることは、自分の価値を値引きする行為です。なぜなら、神が自分を良き者として造り、無条件で愛しておられることを無視して、人からの評価を自分の価値としているからです。神が無条件で私たちを愛してくださっているのですから、私たちは、この世の価値観で愛されるために頑張らなくても良いのです。

神はアブラハムにイサクを捧げるよう命じました。これは、まったく倫理に反する命令です。しかし、神は決して殺人を良しとしているではありません。人は倫理的であればあるほど、人から賞賛を受けることができます。神は、神に目を向けるとは倫理を越えることであるとはつきりわからせるために、あえてこのような命令をなさったのです。

倫理は、人に良く思われるようとする行為です。神はアブラハムに、倫理に生きることをあきらめて、神に目を向けることができるのかと問われたのです。その結果、アブラハムは人から悪く思われる事をいとわず、神に目を向けました。こうして彼は神と結びつき、神から友と呼ばれたのです。

「わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思ってはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。さらに、家族の者がその人の敵となります。わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。」（マタイ 10:34-37）

イエス様は、父なる神に目を向け、神と共に生きる道を示してくださいました。しかしそれは、人から迫害され、あざけられる生き方でした。神にとどまり、神の慰めを受けようとする生き方には、この世から迫害され嫌われる覚悟が必要です。私たちの魂は、神と結びつくことしかできないですから、人の慰めを受けたところで何にもなりません。この世にとどまり、この世の慰めを得ようとしてはなりません。

私たちが人からの慰めを求めて人を愛するなら、相手が良く思ってくれないと不満に感じます。しかし、そのような自分を満足させるための行為は聖書が教える愛ではありません。もしあなたが神にとどまるなら、本当の意味で人を愛せるようになり、本当の意味で平安を築くことができるようになります。

人から慰めを得たいと思って頑張るのは、自分はダメな者だという前提で生きているからです。本当に慰めがほしければ神に求めなければなりません。

2. 罪を言い表そうとしない

自分はダメな者だという前提に立つと、ダメな自分を良く見せるために、自分の罪を隠そうとするものです。しかし、自分が良き者だと知れば、罪を取り除こうとすることができるようになるのです。

もともとダメな人間なら、自分の罪をどうすることもできないですから、神のもとに行って罪を言い表す必要はありません。自分をダメだと思う人は、神を必要としないのです。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイ 10:28）

病気のときに病院に行くのは、健康な自分を取り戻すためです。それは健康な自分を知っているから、そうするのです。自分が良き者であることを知つていれば、罪で苦しむ時、神の元に行くことができます。神は助けてあげるから来なさいと呼んでおられます。罪を認めないのは、自分をダメな者だと思っているからです。あなたは自分をダメな者として生きていかないでしょうか。

3. 自分の弱さを認めようとはしない

「人は良き者」とは、神なしでは生きられない者であるということです。もし、人間が神から独立した存在であれば、それは良き者ではありません。人は、神と一緒に生きる者であるからこそ、良き者なのです。

自分の力で生きることができない弱さこそ、人は良き者であるという証しです。神の恵みは弱さにこそ働きます。自分の弱さを誇ることができた時こそ、良き者だと気づいたということなのです。

「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」（Ⅱコリント 12:9-10）

人が良き者である理由は、弱さの中に神の力が働くからです。自分は強い、立派だということを見せようとして生きるなら、それは自分が良き者であることを否定しているのと同じことです。

自分が良き者であるという実際を間違えると、すべての歯車が狂ってしまいます。反対に、自分の弱さに神の恵みが働く時こそ自分は良き者なのだと知れば、ますます神の愛が見えるようになり、今の生き方が変わります。